

成果指標に関する施策の現時点の状況等

指 標	1 家族・親族以外に関わりがあまりない人の割合		
進捗状況	(参考) 令和元年度 (2019年度)	令和4年度 (2022年度)	目標値
	非認定者 19.2% 要支援者等 11.4%	非認定者 23.7% 要支援者等 12.9%	非認定者 19.2%未満 要支援者等 11.4%未満
<p><現時点での評価></p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度実施の介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では、閉じこもり傾向のリスク要因が令和元年度の前回調査から増加しており、その要因として、新型コロナウイルス感染症への感染を避けるための外出や交流の自粛などの影響が少なからずあったものと推察され、その要因は、当該指標に対しても影響をあたえているものと思われる。 			
<p><課題や対策、今後の展望など></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センターが主催する地域ケア会議において、孤立する高齢者に対し見守り体制の構築を図るとともに、出前講座やリーフレットの配布などを通じ、地域の支援者へ地域での見守りの重要性について、普及・啓発を図っていく。 			

指 標	2 会・グループ（町会、趣味サークル等）への参加割合		
進捗状況	(参考) 令和元年度 (2019年度)	令和4年度 (2022年度)	目標値
	59.9%	51.6%	59.9%超
<p><現時点での評価></p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度実施の介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では、閉じこもり傾向のリスク要因が令和元年度の前回調査から増加しており、その要因として、新型コロナウイルス感染症への感染を避けるための外出自粛に加え、会やグループ自体が休止するなどの影響が少なからずあったものと推察される。 			
<p><課題や対策、今後の展望など></p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことに伴い、地域の会やグループなど活動が再開してきている。 広報紙やリーフレットの活用による社会参加や住民主体の助け合い活動の重要性の啓発や、地域の自主活動グループへの後方支援を通じた社会参加や助け合いの実践についての意識づけなどに引き続き取り組んでいく。 			

指 標	3 介護予防教室の開催数			
進捗状況	(参考) 2022年度 (通年実績)	2023年度 (10月末時点実績)	2023年度 (通年見込)	目標値
	630回	315回	630回	600回
<p><現時点での評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2022年度は、申込者が多い「マシンで！筋力アップ教室」を拡大（3コース→4コース）し、「脳も！からだも！いきいき教室」17コースと合わせて、全42コース（21コース×2期）実施した。 ・ 2023年度は、2022年度と同じコース数で実施している。 ・ 現時点での実績は、計画を上回るペースで推移しており、目標値を達成する見込である。 				
<p><課題や対策、今後の展望など></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も、介護予防教室の効果的な手法を調査・研究しながら、継続していく。 				

指 標	4 リハビリテーションサービスの利用者割合			
進捗状況	(参考) 令和3年度 (2021年度) (通年実績)	令和5年度 (2023年度) (5月末時点実績)	令和5年度 (2023年度) (通年見込)	目標値
	7.3%	7.6%	7.6%	7.5%超
<p><現時点での評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度5月までの各月実績（3～5月）では、居宅サービス全体に占めるリハビリテーションサービスの利用者割合が、目標値である7.5%を超えて推移している。 ・ 一方、訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション別の利用者割合の伸び率は、前年同期比（3～5月）で、訪問が約0.3%の増（2.55%→2.85%）に対し、通所が0.04%の減（4.88%→4.78%）となっており、通所が減少傾向となっている。 				
<p><課題や対策、今後の展望など></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和元年度以降、通年ベースでは、訪問リハビリテーションの利用率は増加、通所リハビリテーションについても、令和2年度を除いて増加していることから、新型コロナウイルスをはじめとする感染症の流行の影響がなければ、利用率は増加するものと思われる。 				

指 標	5 認知症サポーター養成研修の受講者数			
進捗状況	(参考) 2022年度 (通年実績)	2023年度 (9月末時点実績)	2023年度 (通年見込)	目標値
	累計 17,363 人	累計 17,827 人	累計 18,291 人	累計20,000人超
<p><現時点での評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍での認知症サポーター養成研修について、開催方法などを模索しながら実施しているが、予定を下回っている。 				
<p><課題や対策, 今後の展望など></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 若い世代の認知症サポーターを養成するために、地域や職場だけではなく、小・中・高・大学生など若年層へ向けた事業の普及啓発を推進していく。 				

指 標	6 はこだて医療・介護連携サマリー活用機関の割合			
進捗状況	(参考) 令和4年度 (2022年度) (通年実績)	令和5年度 (2023年度) (9月末時点実績)	令和5年度 (2023年度) (通年見込)	目標値
	54.4 %	50.6 %	52.5 %超	52.5%超
<p><現時点での評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 直近の第11回サマリー活用状況調査によると、サマリリーの活用割合は50.6%であり、現時点では目標値を下回っているが、2022年度も前半調査では49.4%であったところ、通年では結果的に54.4%となったことから、2023年度も通年では目標値を上回ることが見込まれる。 ・ これまでの活用状況調査の結果を踏まえると、「はこだて医療・介護連携サマリー」は、医療・介護関係者間で患者や介護サービス利用者の情報共有を行うための市独自のツールとして一定程度定着しているものと推察される。 				
<p><課題や対策, 今後の展望など></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ このサマリーは、函館市医療・介護連携推進協議会の情報共有ツール作業部会等において、本市の医療・介護関係者からの意見をいただきながら、適宜、改良を重ねているものである。 ・ 今後も、より分かりやすく利用しやすいサマリーに更新し、市内の医療機関や介護施設等への更なる普及を進めるため、サマリー活用状況調査の手法を再検討するなど、必要な対策を講じていく。 				